

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2396号 2018年02月19日（月曜日）

《 US eyes global tariff on steel imports 》

「制裁案」に対して「報復」の言葉が飛び交う“貿易戦争勃発”のきな臭い雰囲気は漂う中で、円高水準が続いている。「貿易戦争→円高」に必ずしも整合性があるわけではない。しかし恒常的貿易黒字国である日本にとっては、貿易問題での緊張増大は歴史を見ても「円高」を想起（一種フラッシュバック的に）させるし、その緊張を高めている張本人が依然として世界の経済・軍事秩序の最上位に君臨するアメリカの場合は「ドル安・円高」の連想は自然だ。

米長期金利がジリジリと上昇し、先週末は一時3%にニアミスした。その中でドル・円相場はドル安・円高に動いて、一時は105円台の半ばを付けた。先週の引けは106円前後。新たに見えてきた円高トレンドの中でも東京株式市場が金曜日などは株高を保てた。日本経済の円高耐久力強化とマーケットの円熟を感じさせる。

しかしだからといって一段と円高が進んで二桁（90円台）などになれば、やはり日本経済への影響は大きい。海外展開比率の低い日本の企業の中には、業績に打撃が出てくるところも出るだろう。一時的な円高はそれほど心配いらぬが、恒常的円高は日本経済への影響も大きいし、金融政策の行方にも影響する。

きな臭い雰囲気を一気に高めたのはアメリカの「鉄・アルミ輸入制限」の動きだ。理由は「鉄鋼とアルミニウムの輸入増が安全保障上の脅威になっている」というもの。この二つのメタルが各種武器や枢要的軍事インフラに使われていることは確かで、例えば安い輸入によってアメリカから鉄鋼・アルミのメーカーが消滅したら「アメリカにとって脅威」という論理構成は分かる。しかし一方で「それは口実に過ぎないのではないか」とも見られる二つの事情もある。それは

1. トランプ政権が秋の中間選挙を控えて支持層固めに躍起になる中で、「鉄鋼・アルミの輸入制限」は労働者、関連業界の支持を集めやすい（実際にそうになっている）
2. 北朝鮮問題での協力も十分でない中国への不信感増大の中で、世界的な鉄鋼やアルミの供給過剰の原因とされる中国に制裁を課したいとのトランプ大統領の意向

だ。となれば中国を狙い撃ちする手もあるが、それはさすがに「中国との直接対峙」とい

う形になって良くないし、「安全保障」と銘打ったら隣のカナダやメキシコを含めて、日本やEUなど貿易相手国全般との問題とする必要がある。

では具体的にアメリカは鉄鋼とアルミについて、具体的にどのような「案」を出してきたのか。海外メディアの報道を拾うと、鉄とアルミそれぞれに3案を出しているという。FTは以下のように報じている。

「鉄鋼」

- ① impose a global tariff of “at least” 24 per cent on all imports
- ② levy a 53 per cent tariff on imports from a list of 12 countries including China, Brazil, India, South Africa and Vietnam as well as a quota of 100 per cent of 2017 imports for all remaining countries.
- ③ limit imports via a blanket quota equal to 63 per cent of countries’ 2017 steel exports to the US.

「アルミ」

- ① a global 7.7 per cent tariff
- ② a higher 23.6 per cent tariff on products from China, Russia, Venezuela and Vietnam, accompanied by quotas for everyone else equal to 100 per cent of their 2017 exports to the US.
- ③ a quota of 86.7 per cent of 2017 exports for all countries that ship aluminium to the US.

《 strong opposition to tariff but..... 》

「鉄」「アルミ」と言えば、インフラなどなど産業の幅広い分野に不可欠な資材で、それがアメリカに今より高い価格でしか入らなくなる（いずれのオプションでも）となれば、資材不足、物価上昇圧力懸念、それら資材を使っているアメリカ製品の値上がりによる競争力低下などなど副作用は甚大だ。当然ながら今から「アメリカにとって良くない政策」との批判は国内からも出ている。

当然ながら日本を含め海外諸国は「歯止めなき貿易戦争の引き金になる」とアメリカに強く警告している。日経によれば中国商務省は17日談話を発表。「米国の調査は根拠がない。中国の利益に影響するならば、必要な措置をとって自らの正当な権利を守る」「(米国が安全保障上の理由を名目としたことには)乱用されやすい。各国が模倣すれば貿易秩序に深刻な影響を与える」と批判したという。当然だろうし、EUもアメリカの「鉄」「アルミ」に対抗する具体的商品名を上げて対抗措置を示唆した。

今のところ二製品に対する輸入規制は「商務省の案」となっていて、これらはトランプ大統領の今年4月までの決裁待ちとなっている。どう判断するだろうか。予測が難しい大統領

領だけに、結果を今から予想は出来ない。同大統領が置かれている立場は明確だ。それは「再選を目指す現職大統領として、その前の成績評価とも言える中間選挙を大敗で迎えることは出来ない」ということだ。

恐らく彼にとっては社会的正義や倫理などよりも中間選挙での成績評価が気になっているのだろう。彼にとっては、中国に対して不満がある。アメリカがそうした漂流状態にある中では、日本の円には継続的に円高圧力が生ずると考えるのが自然だ。

もっとも先週の日本のマネーの動きを見ていて、「だいぶ円高恐怖症は消えている」と思った。自動車メーカーは既にかかなり海外生産比率を高めているし、「円高＝株安」ではなくなっている。円高は輸入企業の業績を上げるし、日本人の海外旅行にとってもプラスだ。しかし大幅な円高が続くとなると、国内のデフレ圧力が再び強まるなど弊害が出てくる。当面はアメリカ・トランプ政権の出方待ちの展開か。

今週の主な予定は以下の通り。

02月19日（月曜日）	1月貿易統計 タイ10～12月GDP 休場=米、カナダ
02月20日（火曜日）	1月粗鋼生産速報 1月主要コンビニ売上高 独2月ZEW景況感指数 経済財政諮問会議
02月21日（水曜日）	12月全産業活動指数 米中古住宅販売件数 米1月30日・31日FOMC議事要旨 独仏・EUなどのPMI速報値発表 1月の訪日外国人観光客数
02月22日（木曜日）	独Ifö景況感指数 米1月CB景気先行総合指数 ニューヨーク連銀のダドリー総裁が講演 アトランタ連銀のボスティック総裁が講演
02月23日（金曜日）	1月全国消費者物価指数 1月企業向けサービス価格指数 クリーブランド連銀のメスター総裁が講演 サンフランシスコ連銀のウィリアムズ総裁が講演

ニューヨークの株は「急落したのはいつのこと」といった風情で先週はダウで続伸した。その他の指数も週間を通じてかなり戻した。まだ急落前から数%の「戻しの必要」がある

状態だが、過去9年間に見られた「短期調整」の雰囲気も漂う。しかしちょっと調整（幅と時間）が足りない印象もする。

長期債の利回りは高止まったままだ。先週末の指標10年債の利回りは2.875%。一番高いところで2.914%。先週の後半を見ると高止まりはしているが、どちらかというところと下げの上がったような展開だ。いずれにしてもまだ高水準で「3%を抜いてくるかどうか」が大きなポイントだ。先週は株が戻ったせいかビットコインの価格も三桁に反発した。

《 have a nice week 》

週末はいかでしたか。寒い二日間でしたが、平昌からは「金2」を含む日本のメダルラッシュ。熱い週末でした。土曜日は羽生君の金、宇野君の銀、そして日曜日は小平奈緒の金と。既に日本の獲得したメダルは二桁に乗った。出足はやや低調だったが、その後の推移は下馬評通り。ナイスだなと思います。

私の夢は、女子のカーリングがメダルどころか「金」をゲットできないか、というもの。可能性はある。中国とも延長戦にもつれ込んでの惜敗。やり返せるチャンスはある。この後も有力な金メダル候補がある。女子のパシュート。男子は残念だったが、高木が入った女子は一糸乱れぬコンビネーションがウリ。期待しましょう。

- - - - -

「それにしても」と思う。日本の若者は期待できる、と。土曜日は日本で「号外」が二つも出た。一つはもちろん羽生・宇野快挙ですが、もう一つの快挙は藤井聡太さんの6段昇格。史上最年少で。しかも中味が凄い。15歳6カ月。これまでの記録は加藤一二三・九段（引退）が1955年。「六・五・四段戦」（現在は終了）の15歳10カ月だが、この時の加藤さんの勝ちが棋士限定戦での勝利。藤井さんの勝ちが全棋士参加の大会での勝利。

今月1日付での五段昇段からわずか16日での六段昇格。驚き。自分でも「驚いている。自信にもなりました」と藤井プロ。とにかく準決勝で史上初の「永世七冠」を達成した羽生竜王と公式戦初対戦で119手で勝った。以前も勝っていた。佐藤天彦名人にも勝っているし、「藤井君に敵はいるの？」という状況でしょうか。勝手なお世話ですが、私が気になるのは「優勝賞金750万円」。多分親御さんの管理ということなのでしょう。

若者達による偉業に関する二本の号外。ナイス。この3人のインタビューを聞いても、平野さん、高木さん、それにサラちゃんなどなどのインタビューを聞いても思うのは、「みんなしっかりしている。よく考えている」と思う。むろん彼等が若者の中でも傑出した存在であることは確かだが、その発信能力の高さには刮目すべきだと思う。発信能力は思考が明瞭である事の証拠であって、私は彼等を見ながら「楽しみだな」と思う。

自らの今後を考えて早い時期から「道」を選び、それに注力している。あまり明確なシナリオもなく時間を過ごしてきた私などから見れば「羨ましい」とも思う。今後こうした若者が出てきて欲しいし、スポーツの世界だけではなくビジネスの世界でも出てきたら良いと思う。早くに道を選んで努力を惜しまなかった人、例えば三浦知良さんなどには良い人

生が待ち受けているように思う。とにかく突き詰めることが必要なんでしょう。

日本の人口は減っていて、当然ながら若者の数は減っている。しかしパターン化されない面白い若者、メッセージ力の高い若者が増えているように思う。冬のオリンピックを見ていても、将棋の藤井君などの活躍を見ても「凄い」と思う。藤井君や羽生君などなどのインタビューを聞くのは楽しい。

それでは皆さんには良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》